

## 単純接触効果について

五十嵐桃香

### (1) 問題

単純接触効果とは、ある刺激に繰り返して接触することによってその刺激への好感度や印象が高まるという効果である。

アメリカの心理学者である Zajonc (1968) は、特に意味のない単語と漢字のような記号を無作為に 1 回～25 回提示し、提示回数によって単語やシンボルに対する好感度がどのように変化するかを調査した。その実験の結果、0 回よりも 1 回、1 回よりも 2 回、というように、提示回数が増えるにつれて好感度が増加することがわかった。

五十嵐 (2018) は、5 種類の絵を用いてこの効果を調べた。16 種類の尺度を親和・健康・平和の 3 因子に分けると、親和のみ有意な単純接触効果があったため、Zajonc が考える好感度は親和を中心とするものであると推定した。

また、逆の効果は存在するかという問題が生じた。

Zajonc, Markus, & Wilson (1974) の実験では、著名な科学者と凶悪な犯罪者の写真を用いた。その結果、提示回数が増えるごとに著名な科学者の写真の好感度は増加し、凶悪な犯罪者の写真の好感度は変化しなかった。

Gush (1976) の実験では、ポジティブな意味の単語とネガティブな意味の単語を用いた。その結果、ポジティブな意味の単語の好感度は増加し、ネガティブな意味の単語の好感度は減少した。

そこで、虫の写真の好感度は減少するという仮説を立て、刺激として虫の写真を用いた場合に好感度がどのように変化するかを調査した。

### (2) 方法

#### ①被験者

15 歳または 16 歳の女子高校生 18 人。

#### ②実験計画

接触回数 (1 日目、8 日目)、刺激 (動物の写真、虫の写真)、印象因子 (親和、健康、平和) の被験者内 3 要因とした。

#### ③刺激

印象が良さそうな動物の写真 6 枚と、印象が悪そうな虫の写真 12 枚の合計 18 枚の写真を用意した。

#### ④印象評定

印象評定の質問紙は 4 件法で作成した。五十嵐 (2018) に基づき、16 種類の尺度のうち、「良い・悪い」、「好き・嫌い」、「面白い・つまらない」、「開放的・閉鎖的」を親和、「優しい・冷たい」、「満足・虚しい」、「明るい・暗い」、「充実・空虚」、「快適・不快」、「清潔・汚い」、「鮮やか・くすんだ」、「美しい・醜い」を健康、「整然とした・散らかった」、「安心・怖い」、「安全・危険」、「気楽・息苦しい」を平和とした 3 因子に分けた。

#### ⑤手続き

1 枚の質問紙につき 1 つの刺激を載せ、8 枚を 1 セットとして 4 日間続け、2 日後にもう 4 日間続けて実験を行った。

### (3) 結果

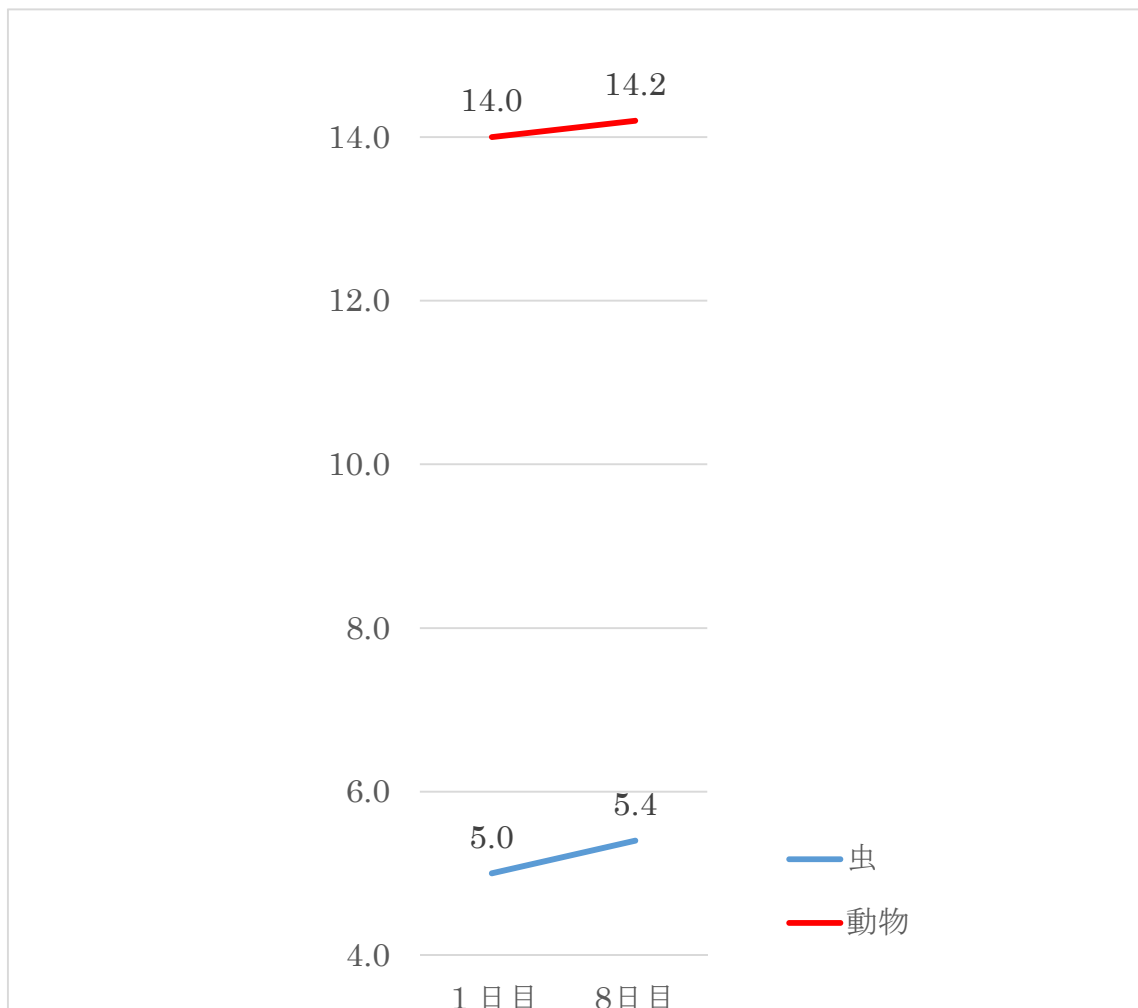


図1 刺激別での初日と最終日の印象評定平均値

3 要因分散分析を行った。

接触回数の主効果は 10%水準の有意傾向があり、1日目と8日目の印象評定の合計の平均を比べると動物の写真の好感度は増加し、実験前に立てた仮説とは異なって虫の写真の好感度も増加した。

刺激の主効果は 1%水準の有意差があり、図1のように、動物の写真の好感度は虫の写真の好感度よりも高かった。

印象因子の主効果、交互作用は有意ではなく、五十嵐 (2018) の実験では親和のみ有意であったが、今回の実験では 3 因子の有意差は無かった。

### (4) 考察

どの実験でも、好感度の評定は言語を介して行うことになる。そのため、ネガティブ単語のように刺激が言語の場合は、単語の意味が直接評価につながりやすく、好感度が減少すると考えた。しかし、犯罪者の写真や虫の写真のように刺激が映像の場合は、その映像の意味

をまず処理した後に、言語化した上で評価する。したがって、言語に対しての直接の評価にはならず、好感度が減少しにくいと考えた。

また、犯罪者には道徳的に悪い印象があるのに対し、虫の印象は外見が不快な点が原因である。道徳的な悪さよりも、外見の不快さの方が、接触回数によって慣れやすいと考えられる。

#### 謝辞

心理学講座を担当して下さった江村崇先生は、2年間に渡って研究を助けてくださいました。心理学で使われる単語や研究の進め方などのたくさんのお話を教わり、たくさんのおアドバイスを頂きました。先生のおかげで実験を成功させることができ、より深く研究することができました。ありがとうございました。

また、今井彩希さん、斉藤香花さん、田中ももかさん、山野藍花さんは一緒に実験をしてくれました。ありがとうございました。

#### 参考文献

- Grush, J. E. 1976 Attitude formation and mere exposure phenomena: A nonartifactual explanation of empirical findings *Journal of Personality and Social Psychology*
- 五十嵐桃香 2018 単純接触効果 城南学園高等学校アカデミア心理学講座
- 生駒忍 2005 潜在記憶現象としての単純接触効果 認知心理学研究
- 川上直秋 2011 閾下単純接触が潜在認知に及ぼす効果—刺激の多様性と接触の累積— 筑波大学大学院人間総合科学研究科心理学専攻博士論文
- 宮本聡介・太田信夫（編著） 2008 単純接触効果研究の最前線 北大路書房
- Zajonc, R. 1968 Attitudinal effects of mere exposure *Journal of Personality and Social Psychology*
- Zajonc, R., Markus, H., & Wilson, W. 1974 Exposure Effects and Associative Learning *Journal of Experimental Social Psychology*